

エアコンの不具合を見逃がしたまま夏を迎えてしまうことも
エアコン試運転経験者の約9割が「したつもり試運転」の可能性
空調のプロがエアコン試運転方法と最適なタイミングをご紹介します

ダイキン工業株式会社は、夏前の「エアコン試運転」をおすすめする「スイッチオン！キャンペーン」を今年も実施します。実施するにあたり、エアコンの試運転の実態を把握するために、全国3,000人の男女を対象に、「夏前のエアコン試運転の実施方法等に関する調査」を行いました。その結果、エアコン試運転を「実施している」と回答した人の約9割が、適切な方法で試運転できていない可能性があることが分かりました。

本格的にエアコンが使われ始める7月頃になると、エアコン業界には点検、修理、買い替えなどの依頼が集中し、修理対応や設置工事に通常以上の時間がかかる可能性が高まります。本キャンペーンは、夏場に安心してエアコンをお使いいただけるよう、エアコン試運転の早期実施をご提案するものです。

昨夏は、記録的な猛暑となり、全国の熱中症救急搬送者数は調査開始の2008年以降で最多の10万510人^{※1}でした。今夏も、全国的に平年よりも気温が高く^{※2}、猛暑の予報が出ています。そのような中、エアコンが正常に稼働するかを確認する「試運転」は、安心して快適な夏を迎えるための重要な取り組みとなっています。

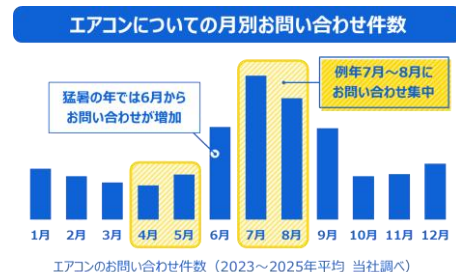
今回の調査では、**全体の約7割がエアコン試運転を知っていると回答したものの、試運転経験者は全体の約4割にとどまり、エアコン試運転を知っていても未経験の人は全体の約3割を占める結果となりました。**エアコン試運転をしない理由の上位には「面倒くさいから」、「必要だと思いが忘れてしまうから」などが挙げられ、**試運転をしない人の多くが手間に感じたりタイミングを逃したりしていることがうかがえます。**一方で、**試運転を実施している人でも、その約9割が適切に試運転できていない可能性があることも分かりました。**メーカーや業界団体は、エアコン試運転の方法として「**最低設定温度で10分以上の冷房運転**」を推奨していますが、今回の調査では、**試運転経験者の約7割が「自分流」や「夏場に冷房を使うときと同じ運転」で試運転していることに加え、推奨方法をきちんと把握しながら実施したはずなのに、「実は推奨どおりに実施できていなかった人」がいることも浮き彫りとなりました。**

このような結果から昨年に引き続き、計画的なエアコン試運転のサポートを目的にダイキンが考案した「夏のエアコン試運転指数」と2026年版の「夏のエアコン試運転前線」とともに、10分ほどで行えるお手軽な正しい試運転方法や節電にもつながる日頃からできるエアコンのお手入れ方法をご紹介します。全国的な猛暑が予想されるこの夏、エアコンが使えず熱中症の不安を抱えて不快な日々を過ごすことなく快適に暮らしていただけるよう、ぜひお役立てください。

※1 消防庁「令和7年（5～9月）の熱中症による救急搬送状況」より
 ※2 気象庁「暖候期予報 夏の天候の見通し 全国（6月～8月）」より（2026年2月24日発表）

● **ダイキンがエアコン試運転をおすすめする理由は、「夏を快適に過ごしていただくため」**

例年、エアコンのお問い合わせや点検のご依頼は、エアコンを使い始める6月頃から増え始め、7月、8月に集中します。混雑により暑い時期に修理対応をお待ちいただく場合があるため、本格的に暑くなる前の4月～5月に試運転を行い、早めに準備を済ませていただくことをご提案しています。



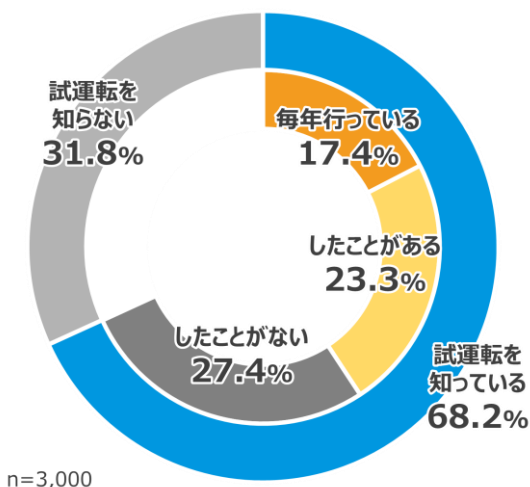
● **エアコン試運転の手順とチェックポイント、お手入れ方法をご紹介します**

調査結果では、エアコン試運転をしている人の約9割が、「したつもり試運転」の可能性があり、エアコンの状態を適切に確認できていない場合があることが判明しました。試運転の手順とポイントをチェックして、夏場に安心してエアコンが使えることを確認しましょう。エアコン試運転の手順やポイントは「エアコンスイッチオン！キャンペーン」サイトで紹介しています。

ぜひご覧ください。⇒ <https://www.daikincc.com/ac-lifenav/switch-on/>

エアコン試運転認知者は約7割も、試運転経験者は約4割 毎年の実施は2割未満と習慣化には至らず

全国のエアコンの試運転の認知率と経験率



今回の調査で「エアコン試運転」の認知について聞いたところ、「知っている」が**68.2%**という結果になりました。2016年にエアコンの試運転の啓発を始めてから10年、エアコンの試運転は今では一定程度知られる存在になっています。

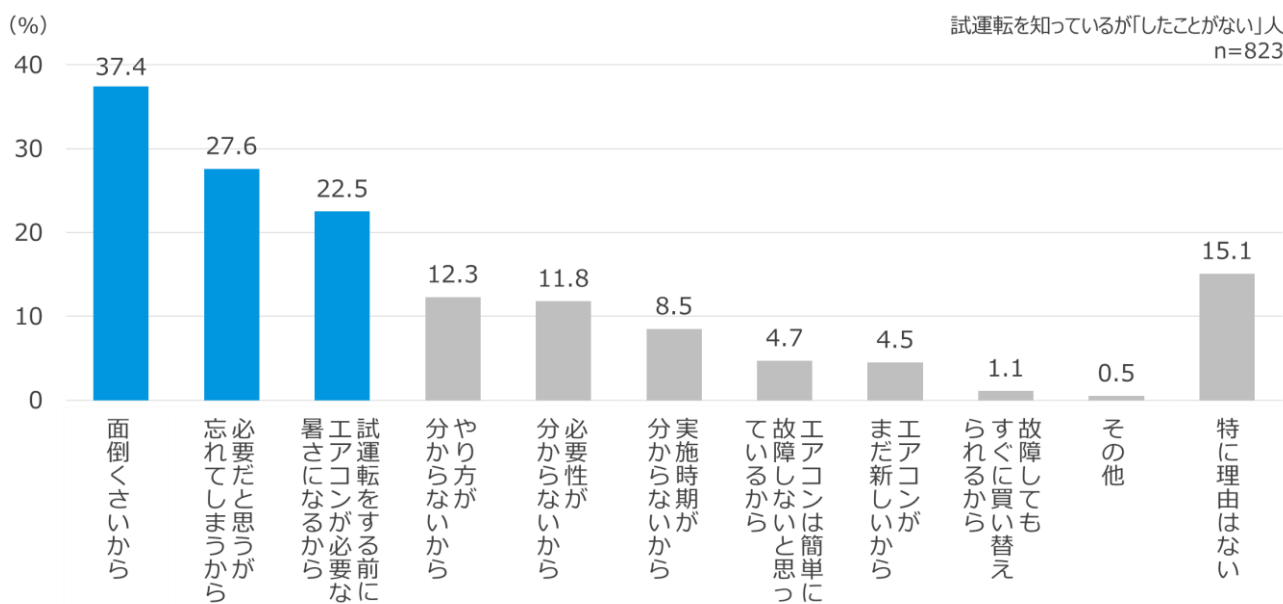
一方で、**試運転経験者は40.7%**と低い水準に留まっています。その内訳は、「毎年行っている」が**17.4%**、「したことがある」が**23.3%**で、試運転経験者の中でも習慣となっている人は少なく、さらに、**試運転を「知っている」のに、「したことがない」という人は27.4%**でした。

エアコン試運転の認知は前回同様に高い水準で維持はしているものの、実際の行動はまだつながらず、習慣化に至っていないということが見えてきました。

知っているても試運転しない理由のトップ3は、「面倒くさいから」「必要だと思いが忘れてしまうから」「試運転をする前にエアコンが必要な暑さになるから」

エアコン試運転を知っているのに「したことがない」人に、試運転をしない理由を聞いたところ、そのトップ3は「面倒くさいから」(37.4%)、「必要だと思いが忘れてしまうから」(27.6%)、「試運転をする前に、エアコンが必要な暑さになるから」(22.5%)でした。**試運転を実施しない人は、その必要性を感じていないからではなく、手間に感じたり、忘れてしまったり、タイミングを逃してしまったりといった理由から行動に移せていない様子が浮かび上がりました。**

エアコンの試運転を知っているが実施しない理由



今年の6月～8月も全国的に気温が高くなることが予想され、猛暑日の増加が見込まれます。ダイキンでは、**面倒と思われる試運転も10分ほどでできる「お手軽コース」**や、実施タイミングの参考になる**「夏のエアコン試運転指数」**や**「夏のエアコン試運転前線」**、など、これまでにエアコン試運転を「したことがない」人にも役立つ情報を「**エアコンスイッチオン！キャンペーン**」サイトにて紹介しています。ぜひ参考にしてください。

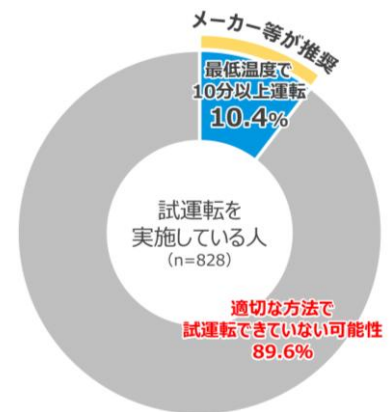
試運転経験者の約9割は「したつもり試運転」の可能性 不具合に気づかないまま使用時期を迎えている場合も

今回の調査でメーカー等が推奨しているエアコン試運転方法を聞いたところ、推奨方法である「最低設定温度」で「10分以上の冷房運転」を実施している人は、わずか10.4%で89.6%の人が「したつもり試運転」の可能性があると明らかになりました。

エアコンの状態を確認するには、設定温度と運転時間が重要です。エアコンは室温が設定温度に到達すると冷房運転を弱めたり停止したりするため、不具合の有無を十分に確認できない場合があります。そのため、室温が設定温度にすぐに達することを防ぐために最低温度に設定し、10分以上運転することが推奨されています。

試運転は「動くかどうか」の確認にあわせて、不具合の有無が確認しやすいような環境下で冷風が出ているか、異常を示すランプが点滅していないかなど、エアコンの状態を確認しておくことも大切です。

メーカー等が推奨する「最低設定温度で10分以上冷房運転」ができていない人の割合

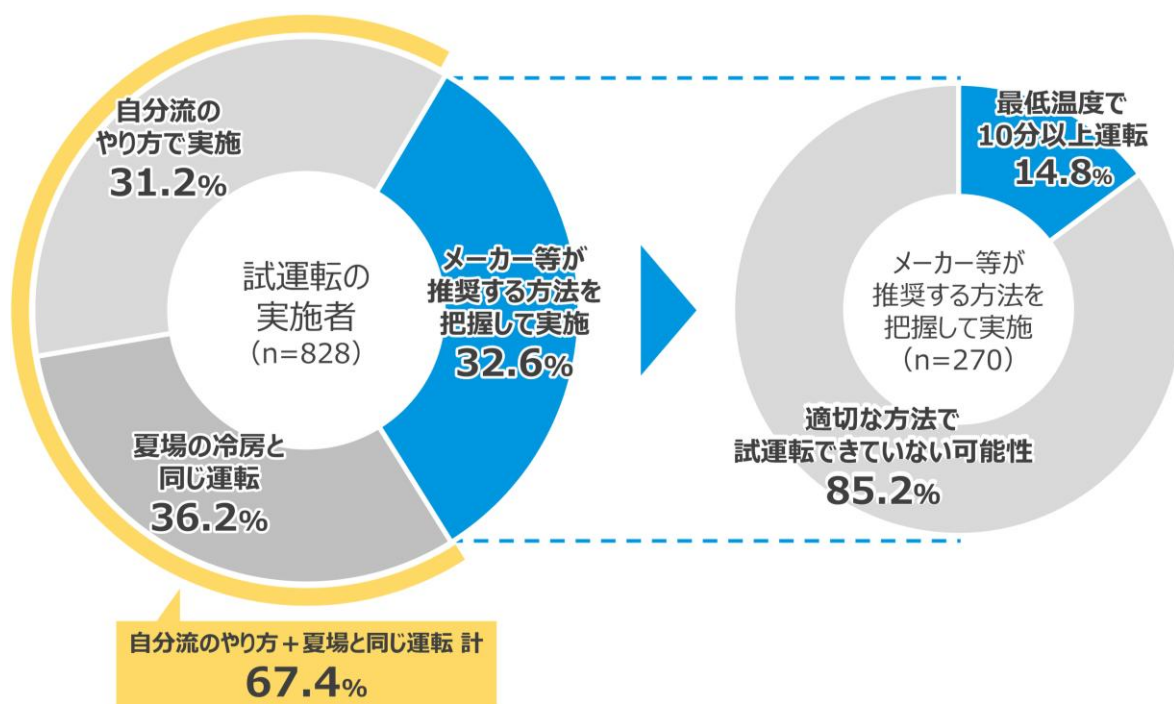


実施者の約7割が「自分流」、「夏場の冷房と同じ運転」と回答 “できている感覚”と実態に差、約9割が推奨どおりに確認できていない

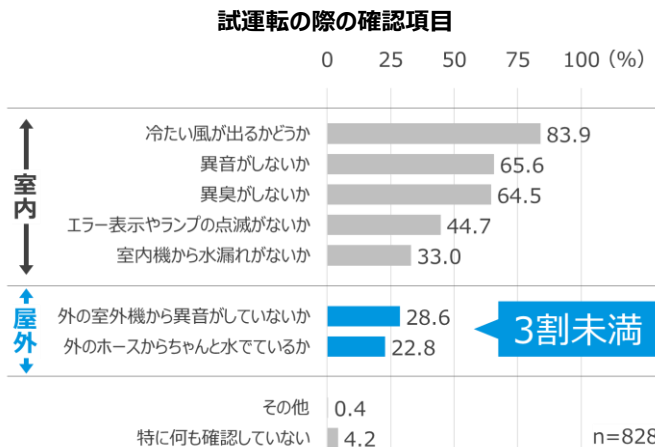
今回の調査で、試運転経験者に実施方法について聞いたところ、「自分流」が31.2%、「夏場の冷房と同じ運転」が36.2%となり、メーカー等が推奨する方法とは異なる試運転を行っている人が67.4%を占めることがわかりました（円グラフ：左）。また、「メーカー推奨の方法を把握して実施した」と回答した人においても、推奨される「最低設定温度で10分以上の運転」で実施した人は14.8%にとどまり、約85.2%が十分に確認できていない可能性がある結果となりました（円グラフ：右）。

実施方法によっては、不具合に気づかないまま使用時期を迎えてしまう可能性があります。試運転の際は、使用しているエアコンのメーカーを確認の上、各社のWEBサイトなどで推奨されている手順で行うことをおすすめします。

エアコン試運転経験者の試運転方法



2人に1人以上が室内機の「冷たい風」「異音」「異臭」を確認するも 屋外にある室外機やドレンホースをチェックしている人は3割未満

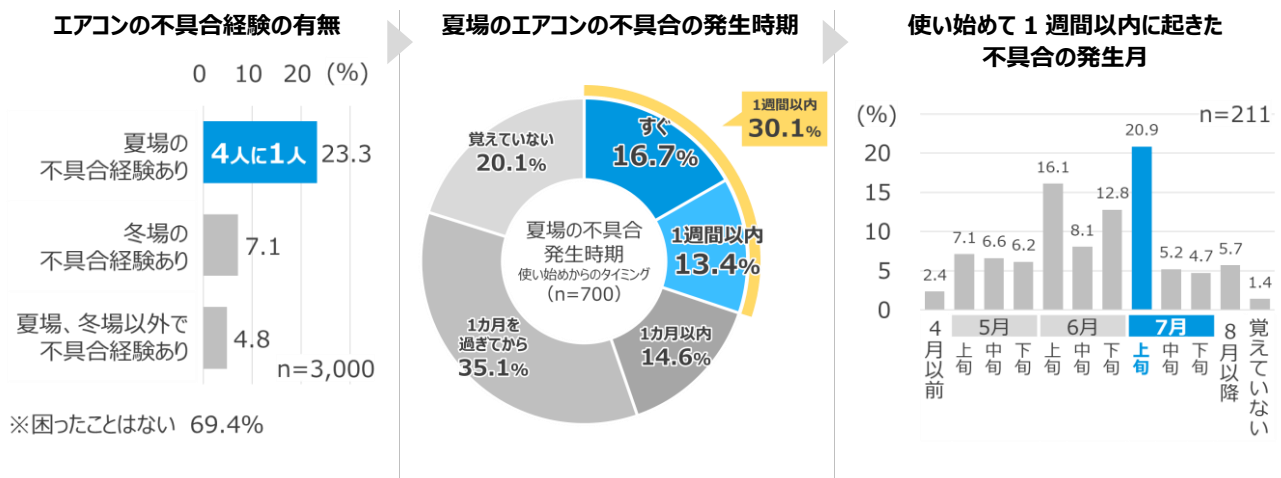


エアコン試運転をしている人に、試運の際の確認項目を聞いたところ、最も多かったのは「冷たい風が出るかどうか」で、上位には室内機の確認項目が並びます。普段あまり意識することがない屋外にある室外機の異音や、冷房時に発生する結露水を屋外へ排出するドレンホースを確認している人は少なく、どちらも3割未満でした。

エアコンの試運転では、最低設定温度で10分以上運転しながら、室内の確認項目と合わせて、不具合の可能性のある室外機の異音の有無や、外のホースから水がきちんと出ているかを確認することをおすすめします。

夏場のエアコン不具合の経験者は4人に1人 使い始めに不具合が見つかるケースも

エアコンの不具合の経験について聞いたところ、夏場にエアコンの不具合を経験した人は約4人に1人（23.3%）で、不具合が発生したタイミングは使い始めてから「1週間以内」が約3割（30.1%）を占め、1週間以内の発生月としては「7月上旬」が最も多い結果となりました。暖房シーズン後、使用していないエアコンを気温の高い時期にいきなり使い始めることで本体に負荷がかかりやすくなり、不具合が生じやすくなる可能性もあります。



エアコン冷房の使い始めとなる6月～7月は、問い合わせや点検の依頼が集中し、修理対応や機器の入れ替え工事に時間がかかることがあります。夏にエアコンが使えない事態は、熱中症などのリスクにつながることはもちろん、日々のパフォーマンス低下にもつながりかねません。エアコン試運転は本格的に暑くなる前の4月～5月に済ませておくことをおすすめします。試運転をすることで夏場の不具合のすべてが回避できるわけではありませんが、試運転によって発見できる不具合や故障もあります。夏本番に慌てないためにも早めの試運転で、今年の夏を快適に、安心して過ごせるよう、本資料をご活用ください。

<調査概要>

調査名 : 夏のエアコン試運転実態調査
 調査期間 : 2026年2月16日～2月17日
 調査対象 : 全国の20代～60代の男女3,000人

「夏のエアコン試運転指数」と2026年版「夏のエアコン試運転前線」公開！ 地域別エアコン使用開始時期の違いを考慮して試運転のきっかけに活用

夏のエアコン試運転指数

ダイキンは、試運転を行うのに適した気温やタイミングを分かりやすく把握できる目安として、「夏のエアコン試運転指数」を2023年に考案しました。天気予報で報じられる気温と照らし合わせれば、試運転に適した日が一目でわかります。気温23～25℃を「最適な時期」として、21～22℃を最適に次ぐ「適した時期」、20℃以下を「不向き」としています。また、気温が26℃を超えた場合、熱中症の心配も出てくる※3ことから、急いで実施いただくことを促します。

例年、夏になるとエアコンの修理や設置工事が急増します。特に集中する7月～8月には修理や工事ができるまでに通常以上の時間がかかることもあり、真夏にエアコンが使えない状況になってしまう可能性があります。本格的に暑くなる前の4月～6月前半の間を目安に、エアコン試運転指数の高い日を選んで試運転を実施することをおすすめします。

夏のエアコン試運転指数		
気温	試運転指数	参考
26℃以上	急いで実施	熱中症が心配される室内環境になってしまう可能性もあります。早めに試運転をしておきましょう。
23～25℃	最適な時期	試運転に適した室温になっている可能性が高い気温です。積極的に試運転に取り組みましょう。
21～22℃	適した時期	試運転ができる室温になっている可能性が高い気温です。試運転指数が高い日に実施できない場合はこうした日に取り組みましょう。
20℃以下	不向き	20℃以下では冷房運転が作動しなかつたりすぐに止まってしまったりするため、試運転には不向きです。

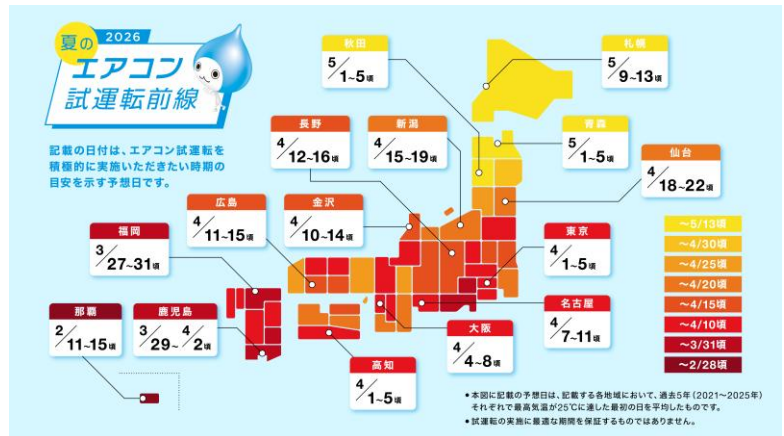
【ご注意ください】
 ● エアコンをつけていないときの室温が、外気温よりも0℃～2℃程度高い場合を想定して作表しています。
 ● 室温は、天気や在室人数、家電や照明などの発熱体の量、住宅の気密性や断熱性などによっても変化します。室温が高くなっていないか注意を払うことも大切です。

※3 環境省や日本生気象学会が情報提供している熱中症予防指針のWBGTでは、主に温度と湿度の関係で熱中症リスクを目安化しています。例えば室温26℃では湿度85%、室温28℃では湿度65%を超えると熱中症への警戒が必要とされています。

2026年版 夏のエアコン試運転前線

「夏のエアコン試運転指数」とあわせて考案した「夏のエアコン試運転前線」は、全国の各地域でエアコン試運転指数が高まるとされる予想日を表すものです。エアコン試運転指数が高く、より効果的な試運転ができると考えられる気温25℃の日がいつ頃やってくるのかを前もって把握できるため、計画的な試運転の実施に役立てられます。

本前線に記載の予想日は、全国けいの各地域の過去5年間で、各年の最高気温が25℃に達した最初の日を調査し、それらを平均した日としています。



こうした考え方で各地の予想日を見ていくと、今年の試運転前線は、すでに4月上旬に東京に上陸し、4月中旬頃から新潟、仙台を北上し、5月中旬に札幌へ到達する予想です。

試運転前線の予想日は、過去5年間で最初に気温が25℃に達した日の平均

各年で最初に気温が25℃に達した日						過去5年間の平均	試運転前線の予想日	
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年			2026年の予想日
札幌	6月3日	5月6日	5月18日	4月15日	5月14日	過去5年間の平均	札幌	5月11日
東京	4月21日	4月10日	3月24日	3月31日	3月23日		東京	4月3日
大阪	4月21日	4月10日	3月22日	4月12日	3月27日		大阪	4月6日
福岡	3月27日	4月9日	3月22日	4月2日	3月23日		福岡	3月29日

エアコン試運転の手順・チェックポイント

エアコンの試運転は、エアコンを本格的に使いはじめる前に、エアコンに不具合が無いことを確認する作業です。冷房運転の際に冷風が出ることや、異常を示すランプが点灯しないことを確認することが基本です。また、より念入りに確認することで、室内機からの水漏れや、異臭や異音の有無も確認できます。

【お手軽コース】 次の①②を実施してください。

冷房の設定温度を最低（16～18℃）に設定し、10分ほど運転しましょう。

①

■ なぜ最低温度で10分間運転するの？

万が一エアコンに異常があった場合、検知するまでに約10分間の冷房運転が必要です。

また、エアコンは室温が設定温度に到達すると室内を冷やす動作を停止するため、最低温度に設定しておくことで、室温が設定温度に早期に到達することを防ぎます。なお、最低温度は機種によって異なります。

■ 試運転前に確認しておきましょう！

電源プラグはコンセントに差し込まれていることや、リモコンの電池は切れていないことも確認しましょう。

冷風が出ているか、異常を示すランプが点滅していないか確認しましょう。

②

■ ランプが点滅した場合！

異常停止している可能性があります。リモコンでエラーコードをご確認いただき、お買い上げの販売店またはお客様相談窓口にご連絡下さい。

【エラーコード確認サイト】 <https://www.daikincc.com/errorcode/>

【お客様相談窓口】 <https://www.daikincc.com/>

【念入りコース】 上記①②に引き続き③④も実施してください。

さらに30分ほど冷房運転し、室内機から水漏れがないか確認しましょう。

③

■ なぜ30分程度運転するの？

エアコンは冷房運転時、室内機の中にある熱交換器が冷やされて結露が発生します。発生した結露はドレン配管とよばれるホースで屋外に排水されます。30分程度の冷房運転で結露水を十分に発生させ、屋外のドレン配管から水が出てくるまで確認できれば安心です。

■ タイマー機能を有効活用しましょう！

30分も待てられない場合は、切タイマーの活用が便利です。なお、その場を離れる場合には、万が一の水漏れに備え、エアコンの下には物を置かないようにしましょう。

不快なニオイや聞き慣れない音がしないか確認しましょう。

④

■ 異臭、異音がした場合は！

ニオイや音の種類により、様々な要因が考えられます。AI故障診断サイトから、ニオイや音の種類にあわせた原因をご紹介しますのでご確認ください。

【AI故障診断】 https://www.daikincc.com/AI_chatsupport/index.html

■ フィルターや熱交換器の汚れ、振動もチェック！

フィルターや熱交換器の汚れが過多となっている場合、嫌なニオイの原因になることがあります。また、振動が原因で異音に至るケースもあります。ぜひチェックをお願いします。

詳しい情報や試運転方法は、「エアコンスイッチオン！キャンペーン」WEBページで公開中！

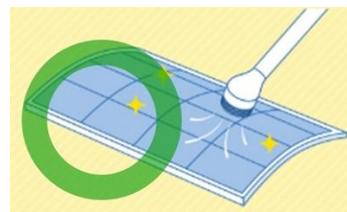
<https://www.daikincc.com/ac-lifonav/switch-on/>

エアコンの節電につながるお手入れ

2週間に1回のフィルター掃除がおすすめ

エアコンは、室内機が周囲の空気を取り込み、室内機の中で温めたり冷やしたりして室内に戻すことで室温をコントロールしています。室内機の中にある**フィルターは、室内機が取り込む空気の中に漂うホ**

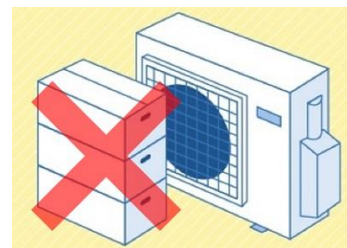
コリを止める役割をしています。フィルターにホコリが堆積すると、室内機を通る空気の量が減り、室温が設定温度に到達するまでに時間がかかり、無駄な電力の消費につながります。**2週間に1回のフィルター掃除をおすすめ**しています。



室外機周辺の空気の流れを確保して、高温になることも避ける

エアコンの冷房運転は、室内の空気中の熱を減らすことで部屋を涼しくしています。室内機が室内の熱を集めて、冷媒と呼ばれるガスが熱だけを室外機に運び、**室外機は、背面や側面から吸い込んだ空気に熱を乗せて正面に吹き出します。**

室外機の吸込口や吹出口がふさがれると、室内から運ばれてきた熱を効率的に放出できなくなり、エアコンに負荷がかかってしまいます。エアコンの運転効率が下がることで、**消費電力が上がり、電気代も上がります。**室外機にカバーをかけたり、室外機の周辺に荷物を置いたりせず、**室外機周辺をスッキリさせ空気の流れを妨げないように**しましょう。



また、**室外機周辺が高温になった場合も、エアコンの運転効率が下がる**ことがあります。夏場、直射日光で室外機の周辺が熱くなってしまう場合は、日影が作れて風通しも良い「よしず」などを、**室外機から1メートルほど離れたところに立て掛ける**ことも効果的です。

<動画で解説> ご家庭でできるエアコンお手入れ方法

エアコンを快適かつ効率よく使うためには、シーズン中とシーズン前の定期的なお手入れが大切です。本動画では、「フィルター掃除」や「室外機のチェック」など、誰でも自宅でする簡単なお手入れ方法を分かりやすくご紹介しています。こまめな掃除を行うことで電気代を抑え、嫌なニオイや冷暖房効率の低下も防げます。節電と快適な暮らしのために、ぜひご覧ください。



<上手なエアコンのお手入れ動画>

URL: https://youtu.be/hGC9wFmK_iM

エアコン不具合時にも対応できる体制を整備し安心して使える環境を目指しています

エアコンは日常的に使用される一方で、夏場の不具合や故障が発生した際には生活への影響も大きい家電です。こうした中、当社では24時間365日対応の問い合わせ窓口を設置するとともに、全国にサービス拠点を整備し、修理や部品手配を含めた対応体制を構築しています。また、パーツセンターを通じて部品の供給体制も整備しており、必要な部品を迅速に届けられる仕組みとしています。これらの体制により、使用中に不具合が発生した場合にも、状況に応じた対応が行える環境を整えています。

製品・技術に関するお問合せ、部品のご購入、修理依頼などは、お買い上げの販売店または下記窓口へ

お客様サポートサイト お問合せや修理のお申し込みの際は、スムーズにご案内させていただくために、恐れ入りますが機種名とエラーコードを事前にご確認ください	Q&A AIチャットでサポートよくあるご質問	対象製品とお問合せ内容を選択することで解決をサポートする情報をご覧いただけます	ダイキンコンタクトセンター 検索 https://www.daikincc.com		
	リモコン・フィルターのご購入	機種・型より検索	価格・在庫の確認	お届け先入力	お届け
	修理のご相談・お申し込み	修理依頼内容を入力	訪問希望日を選択	受付完了メール	ご訪問

24時間365日、安心つながる。 皆さまの総合窓口 **ダイキンコンタクトセンター** 0120-88-1081

【お問い合わせ先】ダイキン工業株式会社 コーポレートコミュニケーション室
本社 (06) 6147-9923 / 東京支社(03) 3520-3100
E-mail: prg@daikin.co.jp